# 亀岡の砥石 弥生人も活用か

## 千代川遺跡 未完成の磨製石器多数見つかる

亀岡市千代川町の千代川遺跡で、弥生時代の中期から後期までの居住域と墓域が同時に見つかったと府埋蔵文化財調査研究センターが発表した。未完成の磨製石器が多数あり、亀岡特産の砥石を使った生産工房があった可能性が高いとみる。

同遺跡の第38次調査で、調査地は同町北ノ庄の府道宮前千歳線沿いの農地。約1万平方㍍と広い範囲を発掘し、居住域3カ所と墓域2カ所があり、円形や方形の竪穴建物と木棺墓をともに計約30基、方形周溝墓3基を確認した。弥生時代中期の集落として亀岡盆地で最大級という。

少し盛り上がった微高地に独立棟持柱がある建物があり、同センターは倉などとして使用されたとの見方を示した。

ヒスイ製勾玉や、河内や近江地域との交流を示唆する土器片が出土。磨製石器は破片や製作途中、失敗とみられる状態が多い一方、完成品が少なく、他地域へ運搬したと推測できるとする。石包丁や斧などの農耕具に比べ、石剣や矢尻といった武器類の割合が高いのも特徴という。

石を磨いてすり減った砥石とみられる石材も複数出てきた。調査地近くで採れる種類と同じ頁岩が用いられていた。地域の資源を生かし、磨製石器を作っていたと考えられるという。

同センターの竹村亮仁主任は、13日の記者発表で「弥生人がどういった建物で暮らし、何をして、どう葬られたのか。およそ紀元前1世紀から紀元1世紀までの集落の全体像が分かる」と話した。

国営農地整備事業に伴い、今年5月から調査している。現地説明会は22日午前10時半～正午。場所は国道9号の千原交差点から西に約600㍍。現地事務所090（6978）3493。（梶井進）

調査地で見つかった円形で最大の竪穴建物跡。弥生後期の建物で、近江地域を中心に出土する遺物も確認された（亀岡市千代川町北ノ庄）

府埋文研 22日現地説明会

## 居住域と墓域も

砥石（といし）

出土した砥石とみられる頁岩。中央部分がつるつるしている